

2021年度 第4回CSR委員会 議事録

日 時 2022年1月21日(金) 13:30~17:00
 会 場 Web会議
 出席者 21名(欠席:)

(敬称略)

ブロック	委員名	ブロック		委員名	ブロック		委員名
東京	廣瀬 城児	南関東		丹沢 悟	東中国	○	山田 眞理
北海道	池田 壮	東京	○	三浦 起世光	西中国		青木 道男
北東北	小笠原 裕司	東海		伊藤 準	四国		平岡 佳展
南東北	沓澤 六雄	北陸		宮下 正	九州北		三浦 文義
上信越	桐島 航平	近畿		松田 時典	九州南		植村 敬子
東関東	岩崎 栄	阪神		西川 秀俊			

<担当副会長>横山 健一郎

<事務局>専務理事:野元 敏昭、特命部長:金澤 亨、特命部長:大谷 隆(記)

:委員長、○:副委員長

<委員会での決定事項>

- ・次年度のぼうさい探検隊要望事項を direct にアップする(1月26日まで)
- ・各地域での防災減災取組みを共有する

議 事

・挨拶

1. 廣瀬委員長挨拶

- ・本日も忙しい中参加いただき感謝申し上げます。
- ・昨年9月28日第3回委員会と10月20日のPT会議の後12月時点では新年最初の委員会で皆さんと会えると思っていたが誠に残念ですが、皆さんの安全を考えWEB会議とさせていただいたので理解いただきたい。
- ・ぼうさい探検隊については、最終的に184団体から282マップの提出があり、昨年を大きく上回る応募があった。損保協会全体の約50%が代協経由での提出となっており、先日損保協会の方と会ったときにも改めて感謝の言葉を頂いた。マップコンクールの審査結果は、キッズリスクアドバイザー賞に熊本代協から提出の「ひとよし防災ワクワク組」が選出され、デジタルマップ賞に2団体、佳作に10団体がそれぞれ選出された。参加いただいた小学生には参加賞としてマスキングテープを各事務局に送付しているので、レターや表彰状を付し、次回の参加要請を付け加えて渡していただきたい。後ほど、次年度の取組みで損保協会への提言事項があれば発言いただき損保協会に申し入れたい。また、明日予定していた表彰式は昨年同様オンデマンド配信となっているので後日視聴いただきたい。
- ・BCPの取組みについては、今年度中に全ての代協でのセミナー開催が完了する。先日の損保協会長の話の中でもハザードマップの重要性について触れられており、皆様の継続的活動を本日確認させていただく。
- ・本日も活発な議論をお願いしたい。

2. 司会進行・議事録作成者の指名

- ・司会進行に山田副委員長、議事録作成者に事務局が指名された。

・報告事項・情報共有

1. 第4回 理事会報告

廣瀬委員長より、配布した第6回理事会議事録の内容に沿って説明が行われ、以下の補足をした。

・審議事項は「2022年度日本代協事業計画の検討」「日本代協アカデミーのコンテンツ充実計画案」「2022年度仲間づくり推進入会目標ガイドライン案」「仲間づくり推進入会・増強Wキャンペーンの実施」「2022年度第39次PIASの中止」の5項目について審議され、承認された。

・事業計画進捗状況について、地域担当理事・各委員会委員長より報告があった。

理事会翌日、全国会長懇談会が開催され会員規模による6つのグループに分かれ事業計画推進について討議を行った

2. 正副会長・各委員長打合せ報告、前回CSR委員会振り返り

廣瀬委員長より、会長懇談会翌日に開催した、正副会長と各委員会委員長との打合せ内容につき報告があった。

・各委員長から次年度の取組みについて報告をした。各委員会の取り組んでいる事項の一つ一つは大事な事項だが、集中して整理して取り組んでいこうという意見があった。

・CSR委員会としては、ぼうさい探検隊推進、ハザードマップ、マイタイムラインを推進事項として挙げさせてもらった。具体的には理事会の審議後に決定されるので後日案内する。

廣瀬委員長より、配布した第2回CSR委員会議事録およびPT会議メモの内容に沿って振り返りが行われた。

・審議事項

1. 各ブロック独自活動状況

事前に提出された活動チェックシートに基き各ブロックより独自活動の報告があった。

(北海道)

・18日ブロック協議会でぼうさい探検隊の成果報告を行った。

・北海道独自活動「タオルボランティア」は全9支部が実施(内、数支部が寄贈済)。

・街頭活動はできていない。

(北東北)

・青森で、「子ども・女性110番の家スキルアップ研修会」参加。

・岩手は、11/1～15献血活動、11/6清掃活動、2/1飲酒運転撲滅街頭キャンペーンを実施。

・秋田で、10/3白神地区植樹ボランティア、12/21出前授業開催。

(南東北)

・活動チェックシートの通り。

(上信越)

・活動チェックシートの通り。

・BCPセミナーを12/2群馬で開催し完了。

(東関東)

・BCPセミナーを栃木・千葉合同で12/4開催し完了。

(南関東)

- ・神奈川では、支部活動として献血、清掃活動を実施。
- ・山梨は、12/8 フードバンク山梨に食料品を供給、1/11～31 献血活動、2/8 高校出前講座を予定。

(東京)

- ・第2回公的保険マスターセミナー2/16、サイバーセキュリティセミナーを3月、公開講座用YouTubeを作成したので配信予定、献血活動実施予定。

(東海)

- ・愛知で、熱田神宮清掃、豊川稲荷清掃を人数制限して実施、2/7BCP セミナー予定。
- ・三重では、海岸清掃実施。

(北陸)

- ・富山で2月に公開講座を予定していたが、開催検討中。
- ・石川では、3校で出前講座実施。
- ・福井では、12月に出前講座実施、12月サイバーセミナー共催。

(近畿)

- ・京都で12/8 山口代協と共同でBCP セミナー開催、3/16 献血活動予定。
- ・滋賀、10/26 地震保険普及のため地元ラジオに出演、11/10 立命館大学、龍谷大学で無保険車撲滅キャンペーン、11/13 宮城県大崎市へ復興応援訪問(2年前の台風被害)。
- ・ブロック全体で開催予定の公開講座については延期。

(阪神)

- ・和歌山で、10月に大清掃実施。
- ・大阪「大阪府建築防災啓発員」認定事業の取り組みで146名が申込み。
- ・事業継続力強化計画認定取得勉強会を3県で実施。
- ・2/19 公開講座をブロックで開催。

(東中国)。

- ・岡山は、岡山西支部、津山支部で車いす贈呈予定、2月に献血月間として活動予定

(西中国)

- ・12月にブロック協議会が開催され、目標未達であったぼうさい探検隊の取組みにつき次回はラグビーや野球のジュニアチームと連携していくことが決定された。
- ・広島で、MSA生命を講師にBCP策定勉強会を開催。

(四国)

- ・活動チェックシートの通り、コロナの影響でほとんど活動ができていない。

(九州北)

- ・福岡で、事業継続力強化計画認定セミナーを企画環境委員会と共同で開催予定。
- ・大分で、大分市と連携しハザードマップセミナー開催予定。
- ・佐賀で、12～2月にかけて4回、事業継続力強化計画認定制度申請勉強会を実施予定。
- ・長崎、2/10 地震保険セミナー開催予定、ぼうさい探検隊参加団体の父兄にアンケートを取って次回以降の参考にする。

(九州南)

- ・九州南では、ぼうさい探検隊の目標は必ず達成しようと励まし合い取組んでいる。
- ・宮崎で、滋賀県の取り組みを参考にして宮崎大学で無保険バイク調査を実施。
- ・熊本で年末から交通遺児募金活動を継続実施中、組織、企画環境委員会と連携し事業継続力強化計画認定取得セミナーを2月に開催予定。

(廣瀬委員長より)

- ・委員会開催前に活動チェックシートは期限厳守で提出いただきたい。

2. ぼうさい探検隊の総括と次年度進め方

第18回マップコンクールの振り返りを行った。

今年度は282マップ、184団体、1,720名が参加した。うち入賞3作品、佳作10作品が選出された。

(主な意見)

- ・児童館を通して参加を呼び掛けていたが、コロナの影響でなかなか進まなかった(特に団体)。
- ・昨年1月頃から声掛けをしてきた成果で応募が増えた(コロナの影響をあまり受けなかった)。
- ・保険会社社員への協力依頼。
- ・会員の家族を中心に活動した。
- ・過去参加していただいた団体の責任者が変わってしまい、コロナの影響でうまくいかなかった。
- ・代協の広告を出すときに、ぼうさい探検隊の紹介を一枠作って掲載(1団体応募有)。
- ・児童保育へ100件のDMを出状(今回は応募無)。
- ・夏休みの宿題として学校へ提出したところ、廊下に張り出してもらえて喜んでおり、普段も通学路の危険箇所を確認するなどの防災意識が高まった、とのお礼の手紙をもらった。
- ・子どもたちが作成したマップを学校の先生にも連携している(子供も親も先生も喜ぶ)。
- ・千葉県八街の傷ましい事件もあり、学校でも通学路の安全管理に力を入れているので校長先生に提案。
- ・1支部1団体は提出するという目標が代々受け継がれている。
- ・県独自の感謝状やお礼状を作成し記念品を渡す。
- ・同じ県内からマップ提出があるが代協経由での提出が0件だったことが悔しい。
- ・会議の都度推進を言い続けた。
- ・フリーペーパーの裏表紙に広告を掲載している。

次年度の進め方・要望

(主な意見)

- ・PTA連合会を通して「子ども110番の保険代理店」を一括登録しているが、PTA新聞にぼうさい探検隊の案内を掲載してもらおうようにする。
- ・今回参加した団体の父兄にアンケートを取って次回の参考にする。
- ・紙ベースの作成は時間がかかるので、タブレットを多く活用していきたい。
- ・チャリティ募金の寄贈先に案内する。
- ・新聞広告を出す時期を早める。
- ・市役所の防災課で学校への防災授業を行っているので、一緒に案内できればと考えている。

(要望)

- ・表彰対象の数が少ないのでは。
- ・タブレットの使用方法が分かりづらかった(特にデータ送信が上手くいかない)。
子供だけでも操作できるようにしてほしい(複数の委員より要望有り)。
- ・アプリの活用はできないのか。
- ・学校行事の予定を立てる 2 月中旬には次回開催案内をもらいたい。

以上意見・要望を取り纏め事務局から損保協会に提出、フィードバックすることとした。

3. 防災・減災の具体的な取組み(ハザードマップ活用討議)

三浦副委員長より昨年 10 月に開催したセミナーの紹介があった。

- ・日本代協の活用セミナー後どのように展開していくかを考えたがやはりプロに講師を頼んだ方がいいと思い国土交通省 関東地方整備局に直接講師の依頼をしたところ簡単に引き受けてくれたので全国 8 地区の整備局でも講師を受けてくれると思う。資料の一部を付けているので参考にして欲しい。
- ・セミナーの中で、マイタイムライン作成の説明があり実際に作成してみると簡単にできたので、ぼうさい探検隊の取組みと連動しても面白いと思った。

各ブロックに持ち帰り、セミナー開催等次年度の計画を立てることとした。

4. 防災・減災の具体的な取組み(BCP策定)

三浦副委員長より

- ・全代協で 2 年間かけてセミナーは開催されたが、この後が重要である。現在、東京都ではコロナ蔓延による従業員の欠勤を想定した段取りの手配、テレワークの加速を要請されている。これはまさに自然災害時以外でのBCP発動であり、今が有効性を試す機会にもなっているのだと思う。

BCP策定についての主な意見

- ・東京では、企画委員会メンバーを中心に事業継続力強化計画を認定取得し BCP 策定を広めていこうとしている
- ・北海道の多くの地域では、ハザードマップや BCP が地域柄馴染まないと思う。規模の大きな代理店が保険会社主導で作成している。セミナーは開催して会員の耳には残っている。
- ・まず自社が事業継続力強化計画の認定を受け、講師となって説明をしているが自らが申請をしてみても多くの課題が見えてきた。一人で作成するよりは複数で申請を行った方がお互い課題を共有することができていいと思う。専門業者に依頼すると費用が掛かる。

外部に依頼する必要はない。経営サポートデスクで全て対応できる。

- ・九州北では東京のセミナーを参考に大分市の土木建築課と連携しハザードマップ活用のセミナーを開催予定であるが、そこで実際に被災した代理店の経験談を交えBCP発動の事例を紹介してもらう。

5. 防災・減災の具体的な新たな取組み(マイタイムライン・定期的な避難訓練実施)について

マイタイムライン作成の事例について

- ・実際にマイタイムラインを作成してみたが、簡単に作成することができたし、災害時の対策を意識することができた。

- ・大分は、ぼうさい探検隊に参加する前に子どもたち向けに動画を作って案内し家族内で災害時の避難経路を話し合った結果をマップに反映させる取り組みを行った。意識を持たせることが重要で親からも感謝の言葉をいただいた。ただ、マップを作るだけでなく子供たちが実際に災害発生時にどのように動いたら良いかを知ってもらえるのでマイタイムラインは素晴らしい仕組みだと思う。
- ・マイタイムラインは本当に素晴らしい仕組みだと思い、理事会、支部会等でしっかり案内している。
- ・長野には信州防災アプリが10月に立ち上がり、そこでマイタイムラインの設定ができるようになっている。このようなツールを各県でも共有したらどうか。

避難訓練についての実際の取り組み事例

- ・上信越ブロックで避難訓練に関するアンケートを行ったところ、約3割は定期的に避難訓練を行っているとの回答があった。そのうち年1回実施が85%、半年に1回が14%であった。他、避難訓練実施記録を備えている、との回答もあった。
- ・実際に実施してみると、足りないもの、役割分担をしっかりと決める等の改善点が見つけた。
- ・どのタイミングで実施したらいいかわからない。

(参考)3月11日(東日本大震災)と半年後の9月(防災の日)に実施している。

6. サイバーセキュリティ対策の進め方

情報共有

- ・東京では、リスク、商品、事故発生時の対応方法について3回に分けてセミナーを開催している。

7. 継続活動の効果的展開の討議

(廣瀬委員長より)

- ・これまでの2年間各代協で計画を立てていたが、コロナの影響で実施できなかったことはやむを得ないと思うが、次年度も同じような活動計画でいいのか、集まらないでもできる(コロナに影響されない)活動、例えばタオルボランティア、募金活動等についてCSR委員の皆さんが意見を出して計画を立てていただきたい。

(主な意見)

- ・宮崎では、滋賀県の無保険車撲滅キャンペーンを参考に大学で実施した。その際メディアを活用しアピールしたところ他の大学からも照会があったのでメディアの活用は効果があると思う。
- ・出前講座の講師が少なくなっていることが課題である。マニュアルは同じものを使用。
- ・子ども110番の保険代理店は集中取組期間を決めて情宣したことで、成果が出た(7店登録)。

その他・閉会

1. 情報共有

(野元専務から全体の補足)

- ・日本は災害が発生した際は人命を守る事を最優先にしているので、全ての災害を防止するような計画を国としては立てないということである。だから、ハザードマップを見て自分の地域のリスクを確認し、その上で逃げてくださいというのが前提となっている。これは、ハザードマップ、マイタイムライン全てにつながるものである。逃げるということを一人一人が覚悟してタイミングをマイタイムラインで決めておくことである。そういった意味でもCSR委員会で行っている項目は非常に重要な項目なので、改めて推進強化していただきたい。

2. 本日の到達点の確認、次回以降日程確認

- ・事務局より、本日の決定事項を再度確認した。

3. 横山副会長所感

横山副会長は途中退席されたので、事前にいただいた所感を事務局(大谷)が代読した。

- ・長時間にわたる会議、お疲れさまでした。
- ・前回の委員会が開催された9月28日は、コロナ感染の第5波が引け、緊急事態宣言が解かれようとしている時期でした。ワクチン効果もあって、年末にかけてこのまま収束か…と思って、新たな年を迎えた途端に、第5波を大きく上回る感染拡大の状況にあります。
- ・この委員会が推進する事業活動は、安心して住める社会の実現に向けて、保険のプロとして多くの人リスクに対する意識を高めていただき、そのうえで損害保険の役割、使命、価値をお伝えすることを目的として行っていることは言うまでもありません。
- ・この2年間、対面での活動に制約、制限がある中で、委員会に携わっていただいております委員の皆さまには、かつて経験したことのない課題、例えば非対面での会議体の運営等に取組んでいただきながら、この事業年度を終えようとしています。本日は、年度の振り返りもしていただきながら、これから成すべき課題について、ご討議頂き、委員会の皆さんで共有をしていただきました。
- ・制約のある中で、第18回ぼうさい探検隊マップコンクールが実施でき、都道府県代協の会員への活動を働きかけていただき、昨年度を大きく上回る結果でした。184団体、282マップの中から、13作品が入選されました。
- ・とくに日本代協が提供するキッズリスクアドバイザー賞には、令和2年7月の豪雨により河川が氾濫し、甚大な水災に見舞われた熊本県人吉市のチームが選ばれました。人吉市の児童の皆さんが、豪雨災害に備える意識を高く持っていることの証であり、熊本代協の皆さまの積極的な取り組みに感銘しております。
- ・その他の入選団体も東日本大震災で甚大な被害のあった東北地方、あるいは度々豪雨災害に見舞われた中国地方や、東海地震に備える意識の高い地域などが選ばれ、自治体や教育機関の防災への取り組みへの本気度が、結果に結びついている、との感想を持ちました。
- ・全47代協の提出には、あと「2」足りなかったのは残念ではありますが、40代協が目標を達成したことは、このコロナ禍を考慮しますと評価に値する結果ではなかったかと認識しています。
- ・ご承知の通り、高等学校の公民科では2022年度から社会保障制度や金融の働きに関する学習が導入されます。また成人年齢も18歳に引き下げられます。若年層に保険について正しく理解し、将来の住みやすい社会、安心できる生活設計への意識を高めるためにも、日本代協のCSR委員会の果たす役割は大きいものがあると感じております。
- ・防災・減災への取り組みとしてBCP策定の啓発活動についての取組みについて、本日も議論いただきました。2年間にわたって実施してきたBCPセミナーも、2月7日実施予定で愛知の開催が決まり、全代協で実施されることとなり、いよいよ次のフェーズに入っていきます。
- ・セミナーが終わって、一息をついていると、熱が冷めてしまいます。ハザードマップの情宣、BCPの策定について啓発するツール、方法を手に入れた今、マイタイムラインの作成と定期的な防災訓練の実施状況を共有して、全国各地での展開に向けて、スピード感を持って取り組む必要があると考えます。
- ・自然災害は、待ってはくれません。早くやっておけばよかったという後悔が残らないよう、時間軸を明確にして進めていきたいものです。
- ・また、目に見えない脅威、サイバー攻撃に対するセキュリティ対策についても情報がありましたが、保険会社の切り口とは別に、代理店ならではの、情宣の仕方も模索し、DXが日常化した今の社会に訴えていくことも必要です。
- ・また、地震保険推進、無保険車撲滅、子ども110番、特定業者対策等々、推進のスピードを上げて形にしていく取組みがあります。

- ・昨年 11 月の日本代協コンベンションでも、次の 10 年を見据えた代理店の姿をみんなで考える機会がありました。10 年後はどんな社会や環境になっているか、そのとき人々は何を期待するか、そしてその期待に応えるために我々はどんなビジョンを持って使命を果たしていくか……。一人で考えるのではなく、志を同じくした仲間とともに意見を出し合って、新たな知恵を生み出していきたいものです。
- ・次回 4 月 14 日には 2021 年度の総括を踏まえて、新年度の活動の骨子も固まり、継続して活動していくことになるかと思えます。次の時代を見据えながら、我々保険に携わる者が為すべきことの足元をしっかりと見つめて、事に当たっていきましょう。
- ・本年もぜひお力添えをいただき、この委員会の課活動を実りあるものにしていただきますことを心から期待しております。

以上

次回開催日 2022 年 4 月 14 日(木) 13:30 ~ 17:00